

第1回 佐波川破堤避難訓練(2007.11.11)

【そのとき!どこに逃げる】 ～シナリオなき即応型避難訓練の報告～

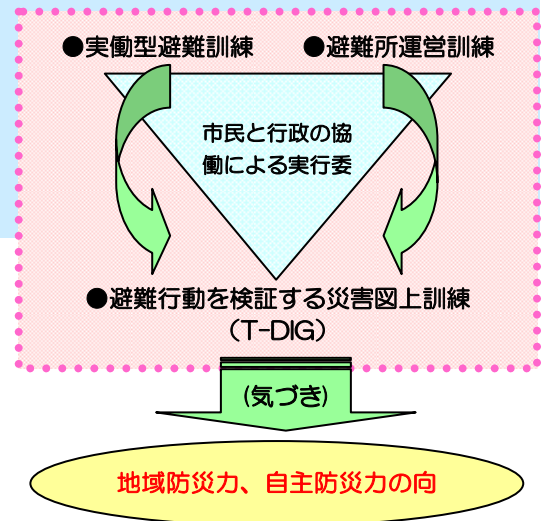
【目的】

佐波川は、ふるさとの一級河川として整備が進められ、上流に佐波川ダムや島地川ダムが完成し、築堤事業は、7割程度整備完了(平成19年現在)しています。災害の記録としては、昭和26年および47年の洪水を最後に現在に至り、市民感覚に「佐波川安全神話」が生まれるほどに、安全な川として親しまれています。

しかし、近年は、全国各地において短時間集中型の降雨による水害が相次ぎ、人命を損ねる大災害が多発しています。佐波川においても、いつなんどきそのような降雨に見舞われるか知れません。

そのため、国土交通省では、地域の方々の防災意識向上の一助として、防災マップ作りの支援や子どもたちへの防災学習などの取り組みを続けてきました。今回は、地域の方々に佐波川の現状を知って頂き、佐波川破堤という事態を想定した非難訓練を実施することにしました。

そこで、「その時!どうすればいいか?」「いざ!という時に役に立つ」訓練とするために、市民と行政が一緒になって考える協働型の避難訓練を計画しました。訓練の体験とその検証を通して、地域の方々と共に、これからの地域防災力、自主防災力の向上につなげていくことを目指しています。



【基本方針】

- 本訓練の企画運営および実施は、市民・行政の協働による【佐波川破堤避難訓練実行委員会】が行う。
- 男女共同参画の視点で計画する。
- 訓練は防府駅北側の商店街周辺エリアを対象とする。

【訓練内容等】

- 事前の広報活動(PR用のCM公募)と関係機関への協力要請(参加者、訓練ボランティア募集)を行う。
- 災害対策本部とコミュニティFM放送局による防災情報伝達(広報車や緊急放送)を行う。
- 破堤箇所復旧シミュレーションとして、水防資材の緊急運搬訓練を行う。
- 現実に近い状態の避難行動に対する対応を検証するため、実働型避難訓練を行う。
 - ・災害時要援護者(地理的不安者、高齢者、障害者)と共に行動する。
 - ・破堤による洪水を子ども浸水隊が演じ、シナリオのない避難行動を誘発させる。
 - ・災害に備えた様々な訓練ステージを体験する。
訓練ステージメニュー → ロープワーク、簡易担架、心肺蘇生法・応急処置、車いす講習訓練、水土のう体験、シニアポーズ(高齢者擬似体験)
- 避難所運営訓練として、災害時非常食の試食を体験する。
- 災害図上訓練(T-DIG)の手法を用いて、避難行動の検証を行う。
 - ・検証項目: 避難経路の振り返り、浸水域の予想と確認、避難行動中の問題点の洗い出し、避難軽減のためのアイデアや今後の課題の検討および解決策の提案。
- 避難訓練の状況をビデオ等による映像記録として残し、今後の防災意識向上に活用する。
- 浸水想定区域図(ハザードマップ)の意識調査を実施する。



【 組織図・スケジュール・プログラム 】

市民と行政による協働型実行委員会の設立
名称「佐波川破堤避難訓練実行委員会」

(実行委員会参加団体の有志で構成)

具体的訓練計画を策定する**作業部会**を開催
通称「シナリオなき即応訓練実行会議」

《 作業部会の主な役割 》

- ① 避難訓練に向けた企画 (PLAN) 計画案を作成し、実行委員会に提案する
- ② 地域 (自治会、商店街、自主防災組織) 及び各防災関係機関との調整を行い訓練実行準備を行う
- ③ 地域広報活動の情報発信 (FMわっしょい、新聞等) への出演を行う。
- ④ 一般訓練参加者を募る。
- ⑤ 訓練支援ボランティアを募る。

● 実行委員会構成団体 (20 団体)

- 1 防府市総務課
- 2 防府市河川港海課
- 3 防府市消防本部
- 4 山口県技術管理課
- 5 山口県河川課
- 6 山口県防府土木建築事務所
- 7 山口県防災危機管理課
- 8 防府警察署
- 9 やまぐち県民活動支援センター
- 10 防府市社会福祉協議会
- 11 防府商工会議所
- 12 FMわっしょい
- 13 NPO 法人市民活動さほーとねっと
- 14 水辺の余校空間利用を考える会
- 15 水の自遊人 しんずいせんたい アカザ隊
- 16 防府防災ネットワーク推進会議
- 17 国土交通省山口河川国道事務所
- 18 防府市市民活動支援センター (事務窓口)
- 19 防府市聴覚障害者災害対策協議会
- 20 まちづくりグループ時空の樹会

準備・会場設営 … 実行委員会、作業部会の開催

避難訓練実施

【 避難訓練プログラム 】

- 9:00 受付開始 (天神ピア)
- 9:30 開会式&オリエンタリング (天神ピア)
- 9:40 避難訓練参加者 (指示された街中ポイントに移動)
配置に着く
- 10:00 『その時!どこに逃げる』実働型避難訓練開始
・災害に備えた体験
- 10:30
・佐波川破堤氾濫の発生 ⇒ ~とととと逃げる!~
- 12:00
ルルサス防府2階多目的ホールに移動
「避難所体験 (給食) & 休憩
- 13:00
災害図上訓練 (T-DIG) ~避難を考える~
- 15:45
閉式&終わりのあいさつ
- 16:00

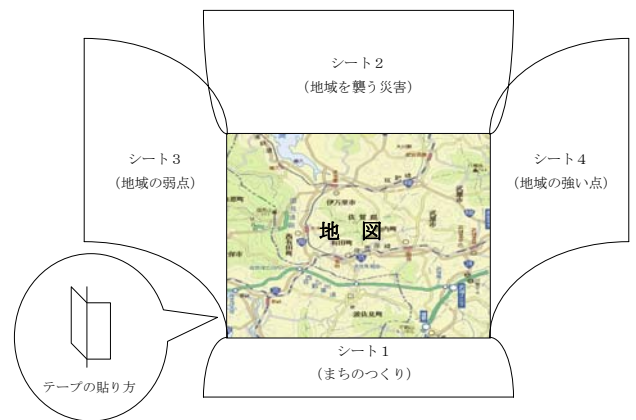
【 避難を考える … 災害図上訓練 (T-DIG) 】

● T-DIG … 瀧本浩一准教授の指導による災害図上訓練
(Town:まち, Disaster:災害, Imagination:想像力, Game:ゲーム)

⇒ < 課題の抽出 → 検討 → 対応 (解決案の提示) >

- ・ T-DIG とは、参加者が地図を囲み、書き込みを行いながら、楽しく議論することで、災害像をより具体的にイメージする手法。
- ・ 基本的なマップづくりから始め、地域の防災課題を徐々に見つけて、より具体的な災害対応へと話を深めていき、指揮所訓練、発災型防災訓練へと発展させていく。

透明シート



【 シナリオなき実働型避難訓練のイメージ 】

佐波川破堤氾濫が発生

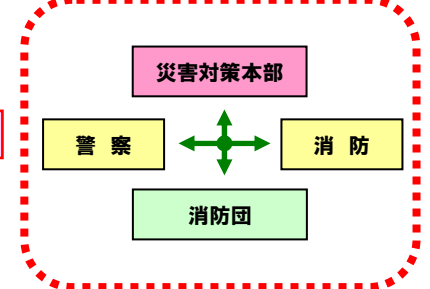
《 地域 》



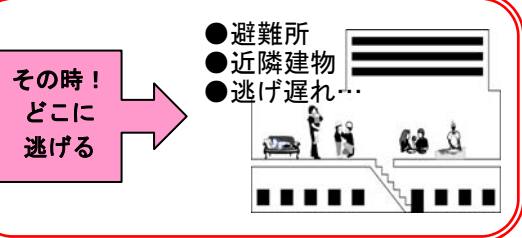
《 防災情報伝達 》



《 防災関連機関 》



《 避難実施 》



● 避難を考える…

- ・ 防災情報の入手
- ・ 最初に起こした行動
- ・ 実際にとった避難経路
- ・ 災害時要援護者への対応
- ・ 地理的不安者の誘導

● 訓練を体験した気づき

- ◆ 公助の限界、自助・共助および自主的判断による対応の必要性
- ◆ 地域防災における地域コミュニティの重要性
- ◆ 自然災害に備えて、地域と行政でどのように連携し、どのようにすべきか

【体験してみよう!】～避難訓練の様子～

① ステージ毎の体験メニュー

■ ロープワーク



■ 簡易担架



■ 心肺蘇生法・応急処置



■ 水土のう体験



■ 車いす講習訓練



■ シニアポーズ



10:00

② 災害対策本部と情報活動

その時…!

■ 災害対策本部の運営



■ 防府市広報車からの情報発信



■ 破堤箇所に水防資材を緊急運搬



■ コミュニティFMからの緊急放送



10:30

③ 実働型避難訓練

どこに逃げる

■ 洪水役の子ども浸水隊



■ みんなで高い所に避



■ 逃げ遅れた人(被災者)



■ 水位を確かめる



⑤ 災害図上訓練 (T-DIG)

■ グループ別に作図と討論



■ 検討結果を発表



13:00

④ 避難所運営訓練

■ 災害時非常食の配給と指導



■ アルファー米にカレーをよそう



12:00

【佐波川破堤避難訓練からわかったこと】

【これから】～避難訓練参加者の意見～

【●避難行動におけるポイント】

- ①正確な情報入手、②機動性の確保（要支援者への対応）、③避難場所の条件（スペース不足など）への対応、④避難経路（段差や開渠が危険、狭窄で通過困難など）への対応、⑤感情面（不安や恐怖）への対応。
- 以上の条件を整え、被害を軽減するために出来ることは、次のようなことです。

【●災害に対し事前にできることへの提案】

《 自主防災力を高める … 自助 》

- ・家族間の申し合わせ、非常持ち出し袋や土のうの用意、大事なものは高い所へ収納しておく、訓練体験を重ねるなど。

《 地域防災力を高める … 共助 》

- ①地域をよく知り、情報の掘り起こしと情報の共有化を図る。
身近な危険箇所や避難できる場所を調べ、マップやパンフレットなどにして、共有の防災情報とする。
- ②助けあえる関係を築いておく。
地域ならではのきめ細かい配慮を可能にするため、介助の役割分担や防災連絡網の作成、災害助け合いの家（子ども110番の家のような、駆け込める家）の設置、災害直後の診療対応の確保など。

《 広く要望したいこと … 公助 》

（情報伝達システムづくり）

- ①手話で伝え合う姿を見て、災害時の緊急サイン（ダイバーの水中サインのようなもの）が普及するとよい。
… 距離が離れていても伝えられる
- ②防災メール、災害電話、有線、無線、電光掲示板、パトライト（緊急灯）、街頭スピーカーなど、歩行者や車両からわかる音声と文字の両方からの情報表示。

（防災情報の表示）

- ①街中に避難場所や避難経路を表示する。水位表示や浸水想定図を設置する。

【わかったこと】～避難訓練全体の検証～

◆佐波川破堤避難訓練のユニークな3つの試み ◆ 手づくり・体験型・シナリオなし ◆

- ①市民と行政が協働した**実行委員会方式**による**市民の手づくり**の避難訓練。
- ②**実働型(体験重視)**、**シナリオなき**（予測不可能な状況）を仕掛け、**即応**（とっさの自主判断による避難を誘発）したあまり例のない避難訓練。
- ③聴覚障害者、民法ラジオが参加・協働した、より**現実的・実践的**な避難訓練。

◆訓練方法への課題

1) 訓練規模

- ・規模としては妥当。訓練メニューはやや多めで、当初計画した救助や搬送訓練を同時に行うことは難しかった。

2) 協働体制と参加者の構成、訓練内容

- ・実行委員会方式の良さが出たと好評。今回の参加者は多様であったが、平常時地域に残っている人は、高齢者と女性、子どもが多いことを考慮した訓練も必要。また、災害の種類も多様であるため、より多くの機会を設けて、大勢の人に多様な訓練を体験してほしい。

3) 訓練の限界と即応型の難しさ

- ・交通規制に対し、一般者の理解を得るのには限界がある。実際の災害でも、通行車両や信号待ち等の問題がある。
- ・シナリオがないことにより浸水隊と参加者が出会わず、浸水被害をシミュレーションするという意図が伝わらなかったところもあった。

4) 災害対策本部の運営、情報伝達

- ・緊急割込放送がよく聞きとれなかったり、全体の状況がつかめず混乱した部分があった。

5) 避難所の運営

- ・非常食の配給、給食はセルフサービスの動線もよく好評。災害時非常食で作る役立つメニューを提案するなど発展性に期待あり。

6) 災害図上訓練

- ・作図や検討作業は成果あり。ただし、課題に対する自主的意見が出にくい部分もあり、意見を引き出す工夫が必要。

◆全体として

- リアルな想像を伴う**体験型訓練の貴重さを実感**したことと、**情報伝達に対する課題**が多く出た。
- 訓練の継続**、体験**機会を望む声**が大きかった。